

青年就農給付金／農業次世代人材投資資金を活用した先輩農業者のすがた(研修を受けて就農されたみなさん)

【準備型】

研修内容 採択年度	水田	野菜	果樹	花き・花木
令和3年(2021年)		秋田県 藤澤 大和 さん 長野県 工藤 奈津美 さん 滋賀県 川崎 香 さん	山口県 金子 雅人 さん	
令和2年(2020年)	山形県 匿名希望※ さん	栃木県 島野 優一 さん 東京都 赤塚 功太郎 さん	岩手県 大櫻 裕之 さん	
令和元年(2019年)		神奈川県 飯野 広士 さん 高知県 埜下 真樹 さん 大分県 平井 聡 さん	愛知県 杉本 泰祐 さん	
平成30年(2018年)		宮城県 齋藤 実 さん 山形県 齊藤 勝久 さん 千葉県 若菜 紘幸 さん 京都府 角田 忠司 さん 大阪府 西野 朱樹 さん 島根県 匿名希望 さん 福岡県 白谷 大吉 さん	佐賀県 原田 諭 さん 岡山県 坂口 雄幸 さん	
平成29年(2017年)		広島県 小山 裕士 さん 宮崎県 川添 圭路 さん	埼玉県 松山 健吾 さん	
平成28年(2016年)	新潟県 本間 恭介※ さん	鹿児島県 山田 豊 さん	香川県 岡田 凌 さん	
平成27年(2015年)			愛媛県 野本 昌平 さん	
平成26年(2014年)		茨城県 中村 敦 さん	富山県 高桑 健 さん	
平成25年(2013年)				北海道 齊藤 義也 さん
平成24年(2017年)		群馬県 永田 亮 さん		

※ 複数の類型について研修

北海道

齊藤 義也 さん (41歳)

研修先：先進農家
研修内容：花卉

新規就農を志した経緯・背景

農業を営む友人たちが地域農業をけん引している姿に刺激を受け、農家に挑戦したいと考えるようになる。会社勤務の傍ら、農家を手伝ううちに農業の奥深さに魅せられたこと、当別町で出会った農家がつくるユリの花に感動したこともあり、妻と共に就農を決意した。

研修中に工夫したポイント

- ・指導農家の「やるもやらないも自分の責任」という教えのもと、研修1年目は花卉の生産管理や機械整備、経理などを学んだ。研修2年目には、一部のハウスは管理を任せられ、一連の作業を夫婦二人でやり遂げた。
- ・研修先以外の農家でも可能な限り働き、農業経験を積みながら資金の確保に努めた。

資金の活用例

主に生活費



今後の取組

花卉（ユリ）の経営を主軸に、農業経営を法人化し、労働力の安定化と複合経営による堅実な農業経営を図る。

就農に向けた推移と今後

研修（H25～H26）

- ・平成25年に研修開始。
- ・花卉の生産管理や機械整備、経理などを学ぶ。
- ・研修先以外の農家でも働き、経験を積む。

就農時（H27）

- ・研修先農家の経営の一部を継承し営農を開始。
- ・ハウス5棟からスタートし、ユリを中心に生産。
- ・平成28年からは研修先農家の経営を全て継承し、第三者継承が実現。

現在（就農8年目）

- ユリ（102a）
木苺（60a）
露地花き（90a）など
- ・令和3年からイチゴの生産を開始。
- ・当別花卉生産組合の副組合長等を務める。

今後の目標（就農10年後）

- ユリ（112a）
木苺（80a）
露地花き（90a）など
- ・農業法人化
- ・イチゴの作付面積の拡大。
- ・イチゴの6次産業化。

大櫻 裕之 さん (48歳)

研修先：農業大学校／先進農家
研修内容：果樹（栽培技術、販売方法）

新規就農を志した経緯・背景

東京で会社員として働いており、農業経営を継ぐことについて具体的には考えていなかった。しかし親が高齢となっていることを目の当たりにして、親が健在であるうちに技術・農地を継承し、美味しいりんごを作り続けたいと思ったため、就農を決意。

資金の活用例

- ・研修中の生活費
- ・就農準備費等



研修中に工夫したポイント

- ・Uターンして、就農の為に実家の手伝いから始めたが、不明点が多く、農業の基礎知識を学びたいと思ったことから研修をスタートした。
- ・両親の知見のない栽培技術や経営管理について、効率よく収量や経営の効果を上げる方法がないか、という視点を持って研修した。
- ・研修での出会いから人脈を広げ、良質なたい肥や苗を購入したり、販路拡大の足掛かりにしたりしている。

今後の取組

将来的に法人化することで、労力確保及び人材育成を図りたい。

日本型直接支払の活動を通じて地域全体の農地保全に努めるとともに、地域コミュニティの維持に資する取組に発展させたい。

就農に向けた推移と今後

Uターン・就農準備 (R1～)

東京での会社を辞めてUターン

- ・岩手から東京に毎週通う生活を止め、実家の農作業の手伝いを開始。
- ・技術を基礎から学びたいと市職員に相談。

研修 (R2～3)

りんご・ブルーベリーの栽培管理全般

- ・令和2年に研修開始。
- ・農業大学校、農業高校、先進農家で、栽培実習、機械操作やマーケティング等、幅広く学習。

現在 (就農2年目)

りんご(125a)、ブルーベリー(3a)、施設野菜(4a)

- ・令和4年に就農。
- ・りんごは獣害に苦しめられながらも、JA及び個人販売で出荷。
- ・りんごジュースを委託製造し、花巻空港等で販売。

今後の目標 (就農10年後)

りんご(125a)、ブルーベリー(3a)、施設野菜(4a)

- ・りんごの安定生産と、加工品の販路拡大を目指す。
- ・自身の経営だけでなく、地域の若手農業者と力を合わせ、農業で地域を活性化させていきたい。

齋藤 実さん (36歳)

研修先：先進農家
研修内容：露地野菜

新規就農を志した経緯・背景

- ・7年間会社勤めをしましたが、会社員としての限界を感じ、自営業者として独立を考えました。その際、両親が営んでいた農業に以前から関心があり、農業で頑張っていきたいという気持ちから、継承しようと決めました。

研修中に工夫したポイント

- ・作業の効率を意識して研修をおこなっていました。
- ・地元コミュニティにも参加し、地元農家とのつながりを構築しました。(就農後は共同出荷を行っている)
- ・先端の情報を得るため、農業資材の展示会への参加や種子メーカーのイベントなど積極的に参加しました。
- ・経営状況を把握するため、青色申告など経理に関する勉強をしていました。

資金の活用例

主に、研修中の生活費として活用しました。



今後の取組

生産資材の高騰により、年々原価率が上がってきているので、生産・出荷時の経費削減の工夫を考えていきたい。また、天候による影響を加味しリスク分散を意識した生産計画を立てる。

就農に向けた推移と今後

研修 (H31～R1)

農作業全般 (野菜露地栽培)

- ・平成31年に研修開始。
- ・主に、レタス、曲がり葱などの栽培技術の研修。

就農準備 (R1)

農地の生前贈与、
農地名義変更の準備

- ・仙台市農業委員会、法務局への相談。
- ・就農したR2.3に継承が全て終了。

現在 (R5就農3年目)

露地野菜の栽培 (120a)
・曲がり葱、枝豆、雪菜、
イタリアン野菜等を仲卸業者に出荷。

- ・売上は目標の約90%、
所得率は40%以上を達成。

今後の目標 (就農5年後)

露地野菜の栽培 (150a)

- ・年間売上目標1000万。
- ・高単価収益野菜の選定と取引先の開拓。

藤澤 大和 さん (34歳)

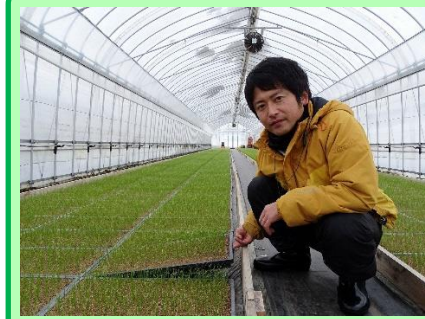
研修先：市町村研修施設
研修内容：ネギほか

新規就農を志した経緯・背景

民間企業に勤めていたが、地元で地に足のついた仕事をしたいと思い、就農を検討。実家の農業は祖父が担っていたが、他界後は大豆栽培の全作業を委託しており、どのような作物で就農するか決めかねていたため、市の研修施設で研修するとともに研修修了生や地元の農家の話を聞きネギ農家として就農することを決意。

資金の活用例

- ・農作業に必要な運転免許取得費（大型特殊、けん引、中型免許）等



研修中に工夫したポイント

- ・準備資金を活用して運転免許を取得(大型特殊、けん引、中型免許)
- ・先輩ネギ農家でインターンシップ研修に参加し、大規模栽培を体験。
- ・スムーズな就農に向け、翌年4月に定植するネギの育苗管理を10月から実施。
- ・研修中からJAネギ部会に積極的に参加し、地域のネギ生産者と交流を深め円滑な関係を構築。
- ・研修中に栽培したネギは秋田県種苗交換会において3位を受賞。

今後の取組

- ・ネギ生産者として安定した経営を目指す。
- ・所属する地域の稲作生産組合において、大豆栽培の中核となって運営に携わり、農を通じて地域を守っていききたい。

就農に向けた推移と今後

研修(R2~3)

- ・2年目から準備型を受給。
- ・ネギの栽培、育苗等を学ぶ。
- ・2年目は、先輩ネギ農家（元研修生）へのインターンシップ研修に参加。

就農準備(R2~3)

- ・資金を活用して大型特殊等農業に必要な免許を取得。
- ・親の農業経営を承継(全体)し、農地の利用権取得。
- ・国・県の補助事業等による農業機械導入の計画作成。

現在(就農2年目)

- ネギ(1.8ha) ※メイン
大豆(1.8ha)
- ・経営開始資金を利用。
 - ・2年目にネギの作付面積を拡大し(90aを利用権設定)、当初目標の面積・売上を達成。
 - ・国・県補助事業を活用し機械化を推進。

今後の目標(就農5年後)

- ネギ(3ha)
大豆(1.8ha)
- ・確固たるネギ栽培技術確立し、反収を増大するとともに規模を拡大。
 - ・ネギの出荷形態を見直し、高単価販売を拡大。
 - ・地域の稲作生産組合の中核として、地域農業を支える。

齊藤 勝久 さん（39歳）

研修先：先進農家

研修内容：野菜（座学、栽培実習等）

新規就農を志した経緯・背景

転職を考えていた際に、新・農業人フェアに参加したことがきっかけで就農を意識。その中で白鷹町の先進農家に出会い、実際に現地を訪れ体験を重ねるうちに、農業に魅力を感じ白鷹町で就農。

研修中に工夫したポイント

- ・独立自営就農を見据えた実践的な研修を行い、研修先の先進農家から地元根付いた多くの栽培技術を学んだ。
- ・積極的に地元農業者と交流し、地域とのつながりを築き、町内直売所を活用した販路を確保した。

資金の活用例

- ・生活費
- ・就農準備費



今後の取組

作業の効率性を向上させ、更なる収量、品質の向上による所得増を図る。

就農に向けた推移と今後

研修（H30～R2）

山形農業支援センター
合同会社 紺野農園

- ・平成30年に研修開始
- ・施設野菜、露地野菜の栽培管理。
- ・農業機械等の操作を
実践で学ぶ。

就農準備（R2～R3）

農業用機械の導入
農地の確保

- ・中間管理機構を活用し
農地を確保。
- ・トラクター、軽トラック等
導入。

【農業収入100万円（R2）138万（R3）】

現在（就農3年目）

露地野菜（きゅうり、
キャベツ、ねぎ）
計 1ha

- ・町内直売所等に出荷。
- ・ハウスを導入し施設
野菜へ挑戦。

【農業収入150万】

今後の目標（就農5年目以降）

施設・露地野菜 1ha

- ・安定生産を目指して、収量の
増、品質の維持に努める。
- ・病虫害防除等の技術研鑽に励む。

匿名希望さん（29歳）

研修先：農業学校
研修内容：水稻、野菜等

新規就農を志した経緯・背景

自然の中で働くことの気持ちよさや、自分で食物を栽培し収穫するという他業種では経験できない喜びや達成感があるということを実感し、鶴岡市立農業経営者育成学校（SEADS）に入校。

研修中に工夫したポイント

- SEADSに入校し様々な作目を幅広く研修していく中で、自分に合った就農スタイルや作目を模索していった。
- 研修1年目は農業基礎としてミニトマト、有機栽培水稻を中心に市内の先進農家の下で学び、2年目はその中から水稻に品目を絞って研修を行った。

資金の活用例

- 研修期間中の生活費
- SEADSの授業料



今後の取組

引き続き栽培技術の向上及び農業知識の習得に努め、雇用先の規模拡大・経営発展に貢献していきたい。

就農に向けた推移と今後

研修（R2～3）

水稻、ミニトマトを中心に研修

- 令和2年に研修開始。
- 準備型資金やアルバイト代により研修期間中の生計を維持。



就農準備（R3）

SEADSスタッフと研修修了後の就農についてイメージを固め、紹介された農業法人への就職が決定。



現在（就農2年目）

トマト栽培、水稻栽培に従事

- 並行して大型特殊免許や車両系の資格を取得
収入（240万円）、所得（180万円）。



今後の目標（就農5年後）

栽培技術の向上及び農業知識の習得に努め、雇用先である法人の規模拡大・経営発展に寄与したい。

中村 敦さん (47歳)

新規就農を志した経緯・背景

以前は会社員として働いていたが、大好きな自然に囲まれた豊かな環境で暮らしたいと思い、妻と共に就農を決意した。

就農した石岡市には、有機農業に取り組む先輩農業者がたくさんいて研修から就農・販売まで、支援体制が充実しているところが魅力的だった。

研修中～就農初期に工夫したポイント

- ・研修機関やOB等のサポートで、研修終了前から条件の合う農地を探し、土づくりを進め、JAS認証を受けておくことで、就農後すぐにJAの有機部会員として出荷することができた。
- ・就農1年目は技術不足から大きな不作に見舞われたが、リスクに直面したことで、天候不順等の厳しい条件での対応力とリスク分散の大切さを学んだ。
- ・6次化（ニンジンジュース）や独自販売ルート（ネット直販）の開拓に取り組むことで、収益性の向上等を実践した。

研修先：農業法人

研修内容：有機露地野菜（栽培実習等）

資金の活用例

- ・研修期間中の生活費
- ・農業機械等の購入費
- ・運転資金



今後の取組

より一層土づくりに配慮しつつ生産性を向上させるため、休耕や緑肥を組み込んだ「余裕を持った輪作体系」を構築できるよう、農地集積・規模拡大に取り組む。

無駄のない栽培計画を立て作業の効率化を進めることで、労働時間とのバランスをとりながら、経営を安定させたい。

就農に向けた推移と今後

研修・就農準備（H26～28）

- ・2か所の研修機関で研修。有機野菜の栽培技術を習得。
- ・準備型を活用して、研修中の生計を維持。
- ・研修中から土づくりやJAS認証を含めて農地を準備。

就農初期（H28～）

JAやさと有機部会
露地野菜（多品目85a）

- ・研修機関やOB等の紹介で農地を借りて経営拡大。
- ・青年等就農資金を活用して、設備投資。経営開始型も受給。
- ・受給5年目には目標の所得250万円を達成。

夫婦型！

現在（R5、就農8年目）

JAやさと有機部会・直売・宅配
露地野菜（多品目約2ha）

- ・部会員として安定出荷。
- ・6次化の取組みや販路拡大によって、所得を拡大。
- ・地元コミュニティで企画しているイベント（マルシェ）出店。

今後の目標（就農10年後）

JAやさと有機部会・直売
露地野菜（多品目約3ha）

- ・先輩農業者として後輩を指導。
- ・SNSを活用したネット直販の拡大、地元コミュニティとのコラボ（マルシェ出店等）。
- ・6次化商品の充実（うどん）。

島野 優一 さん (30歳)

新規就農を志した経緯・背景

会社勤めで農業経験がなかったが、地元の先輩がいちごで新規就農し、手伝って見たら自分もやれそうな気がして妻に相談。先輩と同じ制度で1年間の研修を受け、妻も同じ農家で1年間働いてから独立自営就農した。

研修中に工夫したポイント

- ・とちぎ農業未来塾（就農準備専門研修IIコース：いちご）の座学と実習に加えて、いちご農家で1年間の研修を受けた。
- ・研修中に大型特殊免許及びけん引免許（農耕車限定）を取得した。
- ・自力で農地が見つからず、研修先農家や市農業公社に相談して、農地を取得（貸借）できた。
- ・青年等就農計画を作成する際、普及指導員や市役所、JA、研修先農家等に相談しながら施設整備内容を検討、市単補助事業を組み合わせ、自己負担額や融資借入額を抑えた。

研修先：とちぎ農業未来塾

研修内容：いちご（栽培技術実習等）

資金の活用例

- ・研修受講料
- ・交通費
- ・生活資金
- ・就農準備費用



今後の取組

当初計画の目標単収5t（とちおとめ）に対して、令和5年産実績7.5t（とちあいか）であり、年間農業所得も当初計画の目標250万円を2年目で達成したため、計画変更の申請により、目標を単収8t、農業所得1,100万円へ上方修正した。引き続き、家族経営協定に基づき常にふたりで協力し、定期的な休日確保、安定した経営を目指す。

就農に向けた推移と今後

研修・就農準備（R元～R2年度）

- R元：先輩農家の手伝い
- ・令和2年度とちぎ農業未来塾＋農家研修。
 - ・農地探し、青年等就農計画作成、資金等の申請。

就農（R3～4年度）

- ・いちご（とちおとめ、2年目からとちあいか導入）16a（パイプハウス6棟）育苗ハウス2棟、井戸ポンプ、予冷库、畝立て機等。
- ・1作目（2年目）から黒字化、開始型の夫婦型も活用。

現在（就農3年目）

- ・毎年、当初目標や部会平均を上回る好成績。
- ・品種は全量とちあいか
- ・パート2名導入。
- ・当初計画を変更（パイプハウス5棟、育苗ハウス2棟を増設等）。

今後の目標（就農5年後）

いちご 29.7a
単収8t／10a

- ・規模拡大に伴い、パート雇用5名体制で無理のない労働力確保。
- ・農業所得目標1,100万円。

永田 亮 さん (46歳)

新規就農を志した経緯・背景

民間企業に勤めていたが、農業に憧れがあり、東日本大震災を機に妻の実家がある板倉町で就農を決意。ＪＡ、指導センターに相談し主品目であるキュウリで先進農家において研修を行った。

研修中に工夫したポイント

- ・会社員の時の生活リズムと違うので、農家時間に身体のリズムを合わせるのに苦労した。
- ・ＪＡ青年部、消防団など地元組織に加入しコミュニケーションを積極的にとった。
- ・研修先の栽培技術すべてを吸収するつもりで研修を行っていた。
- ・空きハウスの情報を得るのに各種組織に加入していたので多くの情報を得ることができた。

研修先：先進農家
研修内容：施設野菜

資金の活用例

生活費、資材費など
就農用資金のための
貯蓄



今後の取組

- ・環境制御技術の向上に努め品質収量の向上を図っていく。
- ・ＪＡ、市町で新規参入を推進しており、今後も多くの新規参入者が入ってくると思われる。先輩として助言をしていきたい。

就農に向けた推移と今後

研修（H25～26）

先進農家において農作業全般を研修。

- ・ＪＡ青年部・消防団に加入。
- ・資金や妻のパート収入で生計維持。

就農準備（H26～27）

ＪＡ、研修先の紹介で空きハウスの賃借。

- ・研修を継続しながら、空きハウスを調査。
- ・営農の計画を作成。
- ・ハウスの補修費用として就農支援資金の借り入れ。

現在（就農9年目）

施設キュウリ28a
加工用レタス10a

- ・就農3年目に炭酸ガス発生装置導入。
- ・スタディクラブやＪＡ青年部代表理事として後輩の指導。

今後の目標（就農10年後）

経営面積は現状を維持し品質と収量の向上を図る。

- ・ＧＡＰ認証を取得し安全安心野菜を供給する。
- ・ミニキュウリなど珍しい品種を栽培し産直販売を行う。

埼玉県

松山 健吾 さん (31歳)

新規就農を志した経緯・背景

昔から農業に興味があり、大学卒業後北海道でJA主催による農家への派遣アルバイトに2年間参加したことをきっかけに、就農を考える。

東松山市での梨後継者育成事業の募集を知り、参加。その後、本格的に農業を始めようと、研修を受けることとなった。

研修中に工夫したポイント

- ・東松山市が行う農業塾（梨コース）に入塾し、他で働きながら月2回程度のペースで1年間栽培管理を学んだ後、経営研修として農業経営塾に入塾。応用研修として30aの梨園で指導農家からせん定や摘果、施肥方法など就農に向けての栽培管理を学んだ。
- ・栽培だけでなく販売実習も行っていたので、就農に近い形で研修を受けられ、経営面での問題点もはっきりした。
- ・研修で使用した樹園地をそのまま就農時に借り受けられたため、地域の生産者との繋がりが早くから出来、円滑に就農できた。

研修先：東松山市農業経営塾
研修内容：果樹

資金の活用例

- ・生活費



今後の取組

- ・梨で3haまで経営面積を拡大。収入3000万円を目指す。
- ・梨の状況を見ながら、毎年の気象変動に対応できる品種を取捨選択する。
- ・耕作放棄地の造園を進めている。

就農に向けた推移と今後

研修（平成29年～令和元年）

農作業全般販売
梨の栽培、せん定作業等

- ・平成29年、東松山市農業経営塾で研修開始。
- ・農業経営塾からの資材提供や資金を活用し、応用研修。

就農時（令和元年）

梨園（成園）50a・その他30a
うち研修中から使用 30a

- ・東松山市農業公社等の協力で、利用権設定に向け準備。
- ・青年等就農計画作成・青年等就農資金活用に向け、県・市の協力を得、準備。

現在（就農5年目）

樹園地（成園）170a
樹園地（未成園）30a

- ・未成園の30aは令和6年から収穫開始予定。
- ・まとまって使用できる農地を確保しつつある。

今後の目標（就農10年後）

梨300a

- ・目標収入3000万円
- ・規模拡大が進み、雇用するようになったら法人化を検討。

若菜 紘幸 さん (32歳)

研修先：先進農家

研修内容：野菜(座学、栽培実習等)

新規就農を志した経緯・背景

実家の大工を継いでいたが、婿入先が農家(酪農・イチゴ)で、近隣の大規模農家が儲かっているのを見て、農場で手伝いなどをするうちに農業に興味を持った。大工は仕事が限られ、儲からないので農家になろうと思った。

資金の活用例

- ・生活費



研修中に工夫したポイント

- ・農家研修中に経営計画の助言を受け、秋冬ニンジンを経営の柱として、ショウガ・ダイコン等を組み合わせる等、営農ビジョンを明確にした。
- ・販売先は、農家指導者と共にショウガ・ダイコンの契約販売を行い、ニンジンはJAの共選出荷を行うこととした。
- ・地元の組合やニンジン部会に参加して、地域の農家から中古の機械を譲り受けた。
- ・地域社会への参加により、地域の農家から農地の賃借ができた。ただし、耕作放棄地が多く、開墾の日々が続いたが、前職の重機の操作経験が役に立った。

今後の取組

- ・輸送費や労力不足が課題のため、なるべく経費のかからない販路や、泥付きや簡易選別など労力がかからない販路を開拓する。
- ・大規模栽培で必要な労力確保のために、雇用環境の整備に取り組む。

就農に向けた推移と今後

就農準備 (H31～R2)

研修 (H31～R2)

千葉市にて研修。
座学、栽培実習、農業機械、農家研修等

- ・平成31年に研修開始。
- ・H31.1～3に千葉市で座学と栽培実習等。
- ・H31.4～R2.1に農家研修。

農家研修中に営農計画の策定、農地(201a)の確保、農業機械の取得等に取り組む。

- ・地元の組合や部会に参加して、つてで農地や機械を取得した。

現在 (就農1～4年目)

露地野菜の大規模化に取り組み、作付面積12.9haで、ニンジン、ダイコン、ショウガ等をha単位で栽培。農業所得は当初の目標をほぼ達成。

- ・労働力は常時雇用3人、パート3人等。

今後の目標 (就農5年後)

誰もがやりがいのある農業を目指したい。

- ・経営者として儲かる農業。
- ・従業員が働いた成果にあった収入確保、休日確保。
- ・消費者にとって、おいしい野菜、値ごろ感、満足感のあるものを作りたい。

赤塚 功太郎 さん (27歳)

研修先：東京農業アカデミー八王子研修農場
研修内容：野菜（座学、栽培実習等）

新規就農を志した経緯・背景

農地と住宅が隣接している地域で育ち、食卓には近くで採れた野菜がならんでいた。大学を卒業した頃、近所の農家の厚意で農作業を手伝う機会に恵まれた。農作業を通して、自身の心身が安定することを実感するとともに健康であることの大切さに気づき、農業の魅力を知った。その魅力を農産物販売や収穫体験等に取り組むことで、自ら発信していきたいと考え就農を決意した。

資金の活用例

- ・生活費
- ・就農準備費



研修中に工夫したポイント

- ・早めに就農地を決めることで、自らの農業経営をイメージし、作付計画等をたてられた。
- ・就農地の農家と積極的に交流することを心がけることで、地元農家とのつながりを持てた。
- ・市や農業委員会等関係機関と農地確保のため積極的に相談した。

今後の取組

- ・現在、農地はすべて貸借であるが、農地購入も視野に農地の拡大を図る。
- ・援農ボランティアを積極的に活用し作業効率を図る。
- ・農産物販売のほか、収穫・作業体験にも積極的に取り組むことで、地域に根ざした農家となる。

就農に向けた推移と今後

研修 (R2.4~R4.3)

農業に必要な実践的な農業技術や農業経営に関する知識の習得

- ・令和2年に研修開始。
- ・次世代資金で生計維持。
- ・就農地での農家実習。

就農準備 (R2.10~R4.3)

研修と並行した農地の確保

- ・農地中間管理機構、農用地利用集積計画により、施設付き農地約30aを貸借。
- ・青年等就農計画の認定。



現在 (就農2年目)

約40aの農地で、コマツナやネギ、枝豆、人参等を生協や学校給食などに出荷

- ・学校給食出荷団体でのコマツナ出荷調整を担当。
- ・東京都エコ農産物認証取得。
- ・市や都の補助金で農業機械等購入。



今後の目標 (就農5年後)

約60aまで農地を拡大し、農業経営基盤を安定させ、地域の中心的な担い手へ

- ・販路にあった作付計画の構築。
- ・収穫体験等による作業効率向上と都市農業の発信。

飯野 広士 さん (44歳)

新規就農を志した経緯・背景

健康を考え食品を疑いながら食事した経験から、食の安全に関心を抱くようになった。特に生鮮野菜については加工しないで口にすることも多く、安全・安心な食品が広く求められていることを知り、生まれ育った神奈川県での就農を目指すに至った。

研修中に工夫したポイント

- ・就農希望地であった綾瀬市で、地域に溶け込み末永く農業を営みながら暮らしていくことを目標とした。
- ・研修中は、綾瀬市の特産品であるトウモロコシやブロッコリー等の栽培技術を重点的に学んだ。
- ・かながわ農業アカデミーのカリキュラムにある先進農家研修を、綾瀬市の卒業生の元で受けた。
- ・綾瀬市でのJAさがみ各生産部会の活動に、研修生として積極的に参加した。

資金の活用例

機械・農機具・
資材等の購入



今後の取組

- ・市外非農家出身の新規就農者として、綾瀬市で地域に溶け込み末永く農業を営みたいという同じ志を抱く研修生の受け入れや支援をする。
- ・トウモロコシ部会副部会長として、かながわブランドである「菜速あやせコーン」を行政や地域と一体になって更に発展させる。

就農に向けた推移と今後

研修 (H3 1.4~R2.3)

- ・野菜栽培の技術について
- ・農業機械の操作について
- ・土壌と肥料について
- ・農産物の加工について
- ・病虫害防除について
- ・複式簿記の記帳について
- ・出荷調製・販売について

就農準備 (H3 1.4~R2.3)

農地選定 (20a)

- ・綾瀬市で新規就農した先輩農家と市の農業振興課や農業委員会事務局を訪問。
- ・青年等就農計画の作成
- ・各種資格の取得。

現在 (就農4年目)

露地野菜 (240a)

- ・トウモロコシ、春秋レタス、ブロッコリー、キャベツ部会に加入。
- ・農地保全等の地域活動に参加。

今後の目標 (就農5~10年後)

生産技術向上
農を通じた地域貢献

- ・近年の天候に対応できる栽培技術の習得。
- ・綾瀬市の農業を維持・発展させるために活動。

工藤 奈津美 さん (39歳)

研修先：里親研修制度
研修内容：アスパラガス

新規就農を志した経緯・背景

民間企業で都会生活をするなかで、かねてから興味があった農業・地方の暮らしを決意。人柄・地域柄に惹かれ、飯島町へ移住。地域主力品目のアスパラガスのベテラン農家で栽培技術・経営ノウハウを研修。

研修中に工夫したポイント

- ・本人は県の里親研修制度、夫はＪＡインターン制度を活用し、別々の農家から研修を受け、夫婦同時に技術を習得。
- ・農地探しでは、自ら足を運んで候補となる農地を探し、町と里親に加え、地域の農業法人、営農組合の協力を得て、候補地を選定。候補の全農地で排水性調査、水路等を確認し、栽培適地を選択。
- ・経営に関する知識習得のため、農業経営講座の受講や簿記、ＦＰの資格を取得。
- ・研修先のほか、農業法人で他品目の栽培も勉強。地域の人脈づくりも。

資金の活用例

生活資金

生活面での心配なく、就農に向けて準備に集中できた。



今後の取組

- ・目標をさらに高く設定し、お世話になった地域の皆さんに恩返しができるような一人前の農家を目指す。
- ・つくるだけの農家ではなく、イベント等の対面販売で顧客の笑顔、つながりを大切にする農家になる。

就農に向けた推移と今後

研修・就農準備（Ｒ２～Ｒ３）

- ・Ｒ２からアスパラガスの専業農家で研修開始。夫はＲ３からＪＡインターン制度で研修開始。
- ・研修先その他、新規就農仲間からハウス建設方法、農業法人から他品目の栽培技術を習得。
- ・農業法人等の協力で農地を確保。

現在（就農２年目）

- アスパラ約20a（４～10月長期どり）
※白ネギの委託管理もあり
- ・早期から収穫できるよう大苗で定植。
 - ・目標としていた第一段階の所得目標をクリア。
 - ・ＪＡ、直売、ネット販売と複数の販売チャネルを確保。

夫婦型で
農業経営

今後の目標（就農５年後）

- ・アスパラガスのほか、露地野菜等で規模を拡大。
- ・作業効率を意識したスキルアップ。
- ・新たな販路を開拓し、利益率の向上。
- ・環境に左右されない安定的な供給体制の確立。

本間 恭介さん (32歳)

新規就農を志した経緯・背景

幼少期に父の実家の農作業の手伝いを通じて、農業・自然に関心をもった。建築業に就職したが、農業への思いを捨てきれず離職し、露地野菜の農業のアルバイトに4年従事。佐渡在住の祖母が預けていた農地を不作付けにすると口にしたことをきっかけに独立就農を決意した。

研修中に工夫したポイント

- 県やJA等の関係機関が主催する栽培技術講座や交流会に可能な限り参加し、栽培技術の習得や人脈の形成を図った。
- 関係機関と相談を重ね、経営計画の作成、農地取得や事業活用など就農準備に向けた情報収集を行った。
- 研修先からあっせんしてもらう予定の農地を、経営開始に向け研修中に自ら栽培管理を実施。
- 研修先の代表者と自身の栽培技術及び経営方針の考え方について意見交換を重ね、研修終了後にも気軽に相談できる信頼関係を築くとともに、経営開始に必要な機械設備の借受が可能な関係を構築。

研修先：農業法人

研修内容：水稻・果樹（加工等）

資金の活用例

生活費

（所得確保が難しい
研修中の生活費に充
てることができた）



今後の取組

所得向上及び地域の農地の維持を目指し、規模を拡大していく。

地域農業の維持のために法人化にも取り組みたい。

就農に向けた推移と今後

研修（H29.3～31.2）

- 水稻栽培管理技術を中心に研修。
- 今後、自らが耕作する予定のほ場管理を行った。
- 若手農家等の交流会等へ参加。
- 生計維持に資金を活用。



就農開始（H31～）

- 水稻 約600a
露地野菜 約60a
- 経営開始型に移行。
 - 祖母の知人との直接交渉や研修先からのあっせんで農地確保。
 - 初期投資を抑えるため補助事業活用やレンタル等で機械確保。



現在（就農5年目）

- 水稻 約1800a
露地野菜 約30a
- 農地の拡大は、初期は近隣の農家から、後半は近隣農家からの紹介により順調に拡大してきている。



今後の目標（就農10年後）

- 水稻 約3000a
露地野菜 約60a
- 拡大と合わせて農地を集約し、効率的な栽培管理により収量・品質の向上に努める。
 - 雇用を契機として法人化及び園芸の拡大を図る。

高桑 健 さん (47歳)

新規就農を志した経緯・背景

父が果樹農家をしていたので、私も与えられた環境を活かし、地に足のついた仕事をしたいと思った。また母が、ブドウを栽培し、販売している様子を見て、「自分で作って他人に食べてもらう仕事」に憧れるようになった。農家をしている友人が、最新品種のブドウを育てて、販売している様子を見て、自分も挑戦してみたいと思った。

研修中に工夫したポイント

- 施設の施工や修理を自分で工夫して行くと、災害時や経済的に有利になることを知った。施工技術を身に着ける努力をした。
- 食味の向上は慣行栽培の技術だけでは足りないと先輩から学んだ。有機栽培技術や土づくり、植物の生理の学習に時間を割いた。
- 中古資材と中古機械を買い集め、就農資金の圧縮と、就農のスタートダッシュを目指した。

研修先：先進農家

研修内容：ぶどう、干し柿

資金の活用例

農業機械
農業施設
加工機械



今後の取組

ブドウと柿の栽培技術を向上させる。ブドウの加工や干柿の二次加工により、2級品を減らす。直売所を整備する。販売シーズン限定のカフェなどを開設して、お客様が楽しめる場所を提供する。

就農に向けた推移と今後

研修 (H26.7~27.6)

平成26年7月に研修開始

- 柿の栽培と干柿への加工。
- ブドウのレインカット栽培、T字型短梢栽培。

就農 (H27.7~R4.)

親の経営を継承し、新たに柿を栽培して経営開始
ブドウ50a、柿4.5a

- 両品目共に順調に栽培。
- 売上は計画通り。

現在 (就農9年目)

ブドウの規模拡大中

- 農業補助員の母が高齢のため、人員体制の改変が課題。

今後の目標 (就農15年後)

品質、売上の向上。
余裕のある経営。

- 尊敬する先輩に品質で追いつく。
- 週休2日の実現。

杉本 泰祐 さん（30歳）

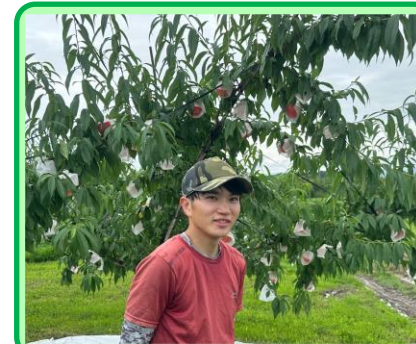
研修先：里親農家
研修内容：果樹（桃・梨）

新規就農を志した経緯・背景

大卒後、事務職として勤務していたが、直接お客様の顔が浮かばない状態で仕事をしており、仕事の目的ややりがいを持ちにくかった。近所にブドウの栽培農家があり農業は身近な存在で、また自分の憧れを抱いている仕事であった。今後どのような仕事をしていきたいか考えた際、自分もおいしい果物を作って食べてもらい、お客様の笑顔を作れる仕事をしたいと思い、就農を決意した。

資金の活用例

就農に向けた運転
資金等に活用した。



研修中に工夫したポイント

- ・独立・自営就農を目的に研修し、里親農家から地域に根ざした栽培技術を習得した。
- ・普及指導センターが主催するセミナーに参加し農業申告の決算処理に関する知識を身につけた。
- ・農地や中古機械に関する情報を積極的に収集した。

今後の取組

- ・成木が増えた時に備え、パートを増員し作業施設や休憩施設を整備する。
- ・異常気象でもしっかりと収量を確保できるようにする。
- ・パートさんに任す仕事、その手順を考える。

就農に向けた推移と今後

研修（R1～2）

- ・1年目：里親農家での栽培実習及び県大のニューファーマーズ研修を受講。
- ・2年目：里親農家での実習及び自己管理ほ場での作業体験研修。

就農準備（R1～2）

- 農地の確保
機械の確保
- ・研修機関及び里親農家の助言による農地借入準備
- ・業者や先輩農家から中古機械に関する情報を収集。

現在（就農3年目）

- 独立・自営就農
桃118a、梨22a
- ・JA桃部会、梨部会に加入。
- ・パートを1名雇用。
- ・主に桃6品種、梨6品種を栽培。

今後の目標（就農4年以降）

- ・梨の早期成園化。
- ・桃の収量増加と等級の底上げ。
- ・桃、梨とも作業効率の良さ、高い収益性を目指す。
- ・初期投資が終わってくるので、経営を安定させていく。

川崎 香 さん (34歳)

新規就農を志した経緯・背景

元々、農業に興味があり情報を収集していたが、長浜市役所が募集していた「ミニトマトの研修制度」に応募して参加。この研修では、ミニトマトの栽培管理に加え、メロンの栽培管理の研修も行い、野菜栽培の面白さ、奥の深さを感じ、より専門的に学んで、農業経営したいと決意し、滋賀県立農業大学校に入校。また、農業次世代投資資金準備型があることも背中を押してくれた。

研修中に工夫したポイント

- ・主品目（ミニトマト、メロン）の栽培技術習得に加え、様々な品目の栽培技術について学んだ。
- ・野菜経営におけるコストや初期設備投資等について学び、就農計画の作成に着手できた。
- ・ハウス建設や少量土壌培地耕システムの構築について学ぶことができた。
- ・卒業生の先輩農家にハウスの自家施工等のアドバイスをもらった。

研修先：農業大学校

研修内容：施設野菜（栽培管理、農業経営 等）

資金の活用例

- ・研修中の生活資金
- ・自己研修に使用する教材の購入



今後の取組

軌道に乗り始めた経営をより充実させるため規模拡大（増棟）する。また、完備している直売所の充実を目指し、味にこだわった野菜をこれまでより供給量を増やすとともに加工品の開発にも着手したい。さらに、味の追求だけでなくパッケージのデザインなどにもこだわって、1人でも多くの“ファン”を増やしていきたい。また、地域貢献という意味合いも含め、雇用を推進する。

就農に向けた推移と今後

研修（R3.4～R4.3）

少量土壌培地耕システムによるミニトマト、メロンの栽培管理、農業経営に関する知識

- ・令和3年4月に研修開始。
- ・大型特殊免許取得、小型車両系建設機械特別教育修了。
- ・準備型の資金や貯金で生活を維持。

就農準備（R4.4～R4.7）

○農地確保
○ハウス建設、システム構築

- ・農地中間管理機構から農地借入。
- ・業者と建設ハウスの調整。
- ・運転資金の一部に準備型の資金を活用。
- ・システム構築（自家施工）
- ・青年等就農計画の認定。

現在（就農3年目）

少量土壌培地耕システムによるミニトマト、メロン栽培
ハウス2棟（750㎡）

- ・直売所完備し、庭先販売を中心とする。
- ・質と量の両面にこだわりお客さんに喜んでもらうことをモットーとする。

今後の目標（就農8年後）

- ・規模拡大（増棟）し、より充実した経営を目指す。
- ・オンラインショップを開設し、より多くのお客さんに供給する。
- ・雇用労働力の導入。
- ・6次産業化（トマトジュース、メロンジュース）の取り組み。

京都府

角田 忠司 さん (34歳)

新規就農を志した経緯・背景

東京で開催されていた「新・農業人フェア」で京都での農業に惹かれるようになり、京都府における就農支援イベントに参加したところ、先進農家と出会い、元々独立・自営就農をしたい思いがあったため、京都府での就農に至った。

研修中に工夫したポイント

研修終了前から、住宅の手配・農地の借受・農業用機械(施設)の取得等について、就農準備を並行して進め、円滑に就農できた。

- ・まずは露地栽培により、野菜の栽培等の技術・知識を学んだ。
- ・独立・自営就農直後からハウス栽培にもとりかかれるよう、ビニールハウスの導入について、早期にJAに相談。
- ・積極的に地域と交流を行い、地元農家とのつながりを構築

研修先：先進農家

研修内容：施設野菜・露地野菜

資金の活用例

- ・農業機械・施設等の購入



今後の取組

- ・動画投稿サイトを活用し、直販につなげられるような周知・PR活動を実施予定。
- ・従業員の拡充を行い、現在の農作業を効率的に行えるよう、努めたい。

就農に向けた推移と今後

研修(H31~R2)

農作業全般
万願寺とうがらし等の栽培・収穫等

- ・平成31年に研修開始。
- ・栽培技術や農業機械の操作技術の習得。

就農準備(R2)

農地や農機具、施設の整備

- ・必要な農機具を準備。
- ・就農後の販路を模索。

現在(就農4年目)

万願寺とうがらし・
ねぎ・かぶ等(27a)

- ・耕作面積は27aに拡大。
- ・経営開始型に移行し、農業所得は約100万円
で順調に所得を拡大。

今後の目標(就農5年後)

万願寺とうがらし・ねぎ・
かぶ等(30a)で直販。

- ・品目を絞り、収益を得られるような販売戦略を行っていく。

西野 朱樹さん（32歳）

研修先：先進農家

研修内容：野菜（水なす、軟弱野菜）

新規就農を志した経緯・背景

- ・祖父母が奄美大島の畜産農家で、農業に憧れがあり鹿児島県の農業高校を卒業後、同県の農業大学校を卒業したが、会社員として働いていた。
- ・平成29年の台風で被災した農業者の復旧支援に行ったことがきっかけで、本格的に就農を目指すようになった。

研修中に工夫したポイント

- ・農業大学校での経験から、栽培に関する最低限の知識はあったので研修先や地域の農家がどのような一日の流れで仕事をしているのか、見て学ぶようにしていた。
- ・地域の農家のほ場へ積極的に出向き、情報交換に努めた。
- ・水なすは露地栽培も施設栽培も経験し、自身が取り組みたい農業経営の姿を明確にするよう心がけていた。ほかにも販路確保や設備投資など、目標の達成に向けた計画作成などを行うように意識しており、就農地の地域活動へも積極的に参加するようにしていた。

資金の活用例

- ・研修費
- ・農業機械購入費
管理機、動力噴霧器
軽トラ、軽バン 等を
中古で購入



今後の取組

- ・作付面積の拡大、雇用による労働力確保、6次産業化（水なすの漬物加工）、スマート農業（環境制御等）の導入を通じた農業経営規模の拡大
- ・4Hクラブ活動の活性化

就農に向けた推移と今後

研修（H30～R2）

- ・先進農家の元で研修。
- ・水なすと軟弱野菜の複合経営を学ぶ。
- ・目指す農業経営を検討。
- ・水路掃除、草刈りなど地域活動への参加。

就農準備（R2）

- ・農地および鉄骨ハウス資材を確保。
- ・青年等就農資金を活用し、鉄骨ハウスを自身で建設。
- ・R3年度分の栽培準備。

詳細は
[こちら！](#)

現在（就農3年目）

- ・建設した施設で水なす、軟弱野菜を栽培。
- ・労働力は本人1人のみ。
- ・4Hクラブ活動を通し、地域の若手農業者や消費者と積極的に交流。

今後の目標（就農6年後）

- ・作付面積を拡大（20a→30a）し、水なすの定植数を増加。
- ・水なすの漬物加工に着手。
- ・自動灌水設備の導入による省力化。
- ・地域における雇用機会の創出。
- ・4Hクラブの活動の活発化。

匿名希望さん (37歳)

研修先：先進農家
研修内容：露地野菜他

新規就農を志した経緯・背景

農業をしていた祖父母を見て、いつかは自営就農をしてみたいと考えていた。当時は民間企業に勤めていたが、市役所に相談した際に就農のための支援制度があることを知り、勉強をしっかりとって就農できるなら安心だ、と思い研修を始めた。

研修中に工夫したポイント

- ・支援制度を活用することで生活費に不安を持たずに、研修に集中することができた。
- ・農家になるなら横のつながりが大切だと思っていた。研修先には新規就農者の先輩や農協の出入りが多かったこともあり、農業関係者との関係構築ができた。
- ・構築できたつながりから、就農に必要な農地・機械等の情報収集をするように意識した。

資金の活用例

生活費・就農資金
として



今後の取組

今までは1人で作業を行っていたが、令和5年11月より農福連携の取り組みをはじめ、就労支援事業所からさといもの出荷調整作業に来てもらっている。他の色々な作業でも利用させて貰えたらと考えている。農福連携で効率化が図れたため、経営規模の拡大にも向かいたい。

就農に向けた推移と今後

研修 (H30.9~R2.2)

農作業全般
主にキャベツ

- ・平成30年に研修開始。
- ・トマト農家とキャベツ農家で研修。特に露地野菜に興味ありキャベツで就農を目指す。

就農準備 (R2)

認定新規就農者取得

- ・関係機関と連携し営農計画、就農計画を作成し認定を取得した。
- ・師匠や先輩農家に相談し農地探しをおこなった。

現在 (就農4年目)

露地野菜
キャベツ240a他

- ・順調に規模拡大が行えており、人手不足も農福連携で補えるようになった。

今後の目標 (就農5年後)

キャベツ以外の品目の規模拡大

- ・今までは市場中心に出荷をしていたが、これからはさといもやサツマイモの規模を増やし産直へのお荷も増やしていきたい。産直での販売が増えるように、量を増やすだけでなく質を意識していく。

岡山県

坂口 雄幸 さん (36歳)

研修先：JA晴れの国岡山

研修内容：ぶどう

新規就農を志した経緯・背景

生きるために不可欠な「食べ物」を自らの手で栽培し、多くの人々に食べてもらうという生き方に憧れた。また、経営者として、自らの責任の下で物事を決心し、実行できることに魅力を感じた。

研修中に工夫したポイント

- ・受入農家、市、JAから案内のあった研修には積極的に参加し、知識を習得。
- ・普及指導センターの指導を受けながら、綿密な青年等就農計画を作成。
- ・受入農家や地域住民から信頼を得ることで、就農直後に成園や若木園地を確保でき、経営開始年から所得を確保。
- ・地域になじめるよう地元の行事等には積極的に参加。

資金の活用例

- ・研修期間中の生活費
- ・研修会参加や地域内ほ場把握に係る経費等



今後の取組

加温栽培の導入による作業分散、雇用の導入による作業の効率化を進め、経営の安定化と品質の向上を図りたい。また、近隣の産地との情報交換の機会をつくり、相互のスキルアップを目指したい。

就農に向けた推移と今後

研修（H30～R元）

農作業全般。
ぶどうの栽培、出荷等

- ・平成30年に研修開始。
- ・給付金、自己資金、妻の収入で生計を維持。
- ・農業大学校でも研修受講。

就農準備（R元）

就農予定地の確保と
就農計画の作成

- ・中間管理機構を活用し農地を準備。
- ・青年等就農計画を作成。

現在（就農4年目）

ぶどう（55a）

- ・就農時の園地35aに加えハウス園地20aを取得。
- ・農業所得は青年等就農計画を上回り順調。
- ・経営開始型を受給。

今後の目標（就農6年後）

品質の向上を図る

- ・加温栽培と雇用の導入により出荷物の品質向上を目指す。
- ・東備地区全域での産地力、技術力の向上に貢献する。

小山 裕士 さん (35歳)

研修先：広島県果実農業協同組合
研修内容：露地野菜

新規就農を志した経緯・背景

ぶどう産地のある地域で育ったことで、農業を身近に感じていた。大学を卒業して就職していたが、広島果実農業振興対策センター沼隈農園の研修を新聞記事で知り、地域の特産品であるぶどう作りに携わりたいと思い、就農を決意した。

研修中に工夫したポイント

- ・研修1年目は、ぶどう栽培における作業の意味を理解するように努め、疑問点は指導者や研修卒業生、先輩農家に聞き、すぐに解決するように心掛けた。
- ・研修2年目には、前年をふまえて、出荷から逆算した作業スケジュールを主体的に考案し、他の研修生と協力しながら作業を行った。経営計画の作成や視察、新品種等の情報収集についても積極的に取組んだ。
- ・産地内での園芸組合の行事や共同作業に参加し、組合員とコミュニケーションをとりながら良好な関係を作り、地域に溶け込んだ。

資金の活用例

研修期間中の生活費等



今後の取組

ぶどうの栽培面積を拡大しながら、高品質なぶどうを安定的に生産し、経営拡大を目指したい。

就農に向けた推移と今後

研修 (H29~R1)

ぶどう栽培管理から収穫・出荷までの作業全般

- ・平成29年に研修開始。
- ・栽培実習、営農基礎。
- ・市場視察に参加。

就農直後 (R2)

ぶどう 24a

- ・園芸組合長や農園長の助力で、24aの成園地を確保。
- ・青年等就農計画の認定。

就農4年目

ぶどう 69a

- ・加温ハウスを導入し、温度をスマートフォンで管理。
- ・就農2年目に集積・改植した園地の収穫も開始。

今後の目標 (就農7年後)

ぶどう 80a

- ・面積をさらに拡大し、経営規模を拡大。
- ・繁忙期の人員を確保し、高品質なぶどうを安定的に生産。

金子 雅人 さん (32歳)

研修先：農業大学校／先進農家
研修内容：梨

新規就農を志した経緯・背景

前職は香川県で事務をしていたが、農業に憧れがあり結婚を機に移住・就農を考える。就農先を探す中で、関心のある果樹を探していたところに山口県で募集があった梨農家の事業承継という形で就農を決断した。

研修中に工夫したポイント

- ・農業大学校在籍中に受講できる資格講習等を受講し取得した。
- ・簿記の知識を活かし、農業簿記2級を取得した。
- ・研修の合間で定期的に継承予定園に通い、樹の状態、剪定技術の引き継ぎ、新植予定地の整備などを行った。
- ・就農予定地の組合活動に積極的に参加し、先輩農家とのつながりを構築した。
- ・県外の先進農家や研究機関に視察へ行き、最新技術を学んだ。

資金の活用例

- ・研修中の生活費
- ・研修に使用する道具



今後の取組

新しい仕立て方「ジョイントV字樹形」を導入し省力化、早期成園化を成功させ、県内での普及促進を目指す。

駐車場、休憩所を整備し、観光農園として直売率を向上させる。組合の活動に積極的に参加し、産地の振興に取り組む。

就農に向けた推移と今後

研修 (R3～R4)

- 農作業全般
梨の栽培、剪定等
- ・R3年に農業大学校にて研修開始。
 - ・R4年 就農予定地の梨組合にて現地研修。

就農準備 (R3～R4)

- ・関係機関のサポートを受け、園地継承の合意書の作成、調印。
- ・営農計画の作成。
- ・継承予定園にて引き継ぎ。

現在 (就農1年目)

- 梨 70a
- ・経営開始型に移行。
 - ・目標売上を達成。
 - ・空き地を開墾し、経営発展支援事業を活用し梨棚16aを増設。

今後の目標 (就農5年後)

- 梨 86a
- ・ジョイントV字樹形にて16aを新植。早期成園化を目指す。
 - ・観光農園、インターネットを通じて販路の拡大、直売率の向上を図る。

岡田 凌さん（33歳）

研修先：先進農業法人
研修内容：果樹（柑橘、ナシ）

新規就農を志した経緯・背景

県外出身で民間企業に勤めていたが、以前から農業（果樹）にあこがれていたため、働きながら当時の勤務地であった観音寺市の農業法人に農業体験に通う日々を送る。自分のイメージしていた農業と一致したことから、独立・自営就農を目指し、農業体験した法人で本格的に研修を開始。

研修中に工夫したポイント

- ・カンキツには、表年と裏年があり、研修期間中（2年間）に1回ずつしか体験できないため、栽培ポイントに関して細かく記録を付けたり、栽培技術に関して積極的に質問するなど努力に励んだ。
- ・将来の自分ひとりでの就農をイメージしながら研修に取り組み、家族経営生産者の経営も学びながら栽培技術、経営に関する知識を習得。
- ・農地および販路の確保については、法人（研修先）の協力もあり円滑に就農できた。
- ・農地については、園主が高齢化により手放す園地を選定することで、1年目から収入を確保。

資金の活用例

（準備型）

生活費、就農準備費（コンテナ等資材の購入

（開始型）

運転資金（農薬、肥料、資材等の購入）



今後の取組

- ・地域に信頼・必要とされる農業経営を目指していきたい。
- ・消費者に求められる商品を目指し、味と品質の向上を図る。
- ・ワーク・ライフ・バランスを充実させ、家族がいつも笑顔でいられる家族経営を確立したい。

就農に向けた推移と今後

研修（H28～30）

- 栽培作業全般
カンキツの栽培管理
出荷調整
- ・平成28年に研修開始。
 - ・将来の独立・自営就農像をイメージしながら研修に取り組む。
 - ・準備型資金と貯蓄で生活費を賄う。

就農準備（H30～R2）

- 研修先の師匠の紹介で
園地を確保
- ・研修中に園地を選定し就農1年目（80a）から収入確保、2年目に160aに拡大。
 - ・就農1年目に動力噴霧器、3年目にクローラ運搬車を導入。

就農期（R2～4）

- 園地と品目を拡大し
経営の安定化を図る
- ・カンキツの栽培面積200aに拡大。
 - ・老木の改植に取り組む。
 - ・R4からナシ栽培を追加して（8a）、夏期の収入源を確保。

現在（就農6年目）

- 安定した収量確保と
品質の向上を目指す
- ・改植した果樹が順調に成長し、今後収穫増が見込まれる。
 - ・消費者を意識し、味や品質のよい商品の生産に注力する。

今後の目標 （就農10年後）

- 安定した家族経営の確立、地域の信頼
- ・奥さんとともに安定した家族経営を目指す。
 - ・直販等新たな販路開拓。
 - ・将来的には研修生の受入や新規就農者の育成など地域への貢献を目指す。

野本 昌平 さん (29歳)

研修先：農業大学校
研修内容：かんきつ

新規就農を志した経緯・背景

実家が農業を営んでいたが、高校は普通科へ進学。卒業後は東京で会社員として勤務。会社員として働くうち、自営への気持ちが強くなり、親の勧めで農業を選択し、技術習得のため農業大学校へ進学。

研修中に工夫したポイント

- ・実家で手伝っていた時の作業内容を学問的に理解できた。
- ・就農後は、共同出荷だけでなく消費者への直接販売もしたかったため、生産者から消費者までの流通やマーケット理論等を積極的に学んだ。
- ・実家でこれまで行ってきた各種作業を、より効率的に実施できるような技術や情報収集を行った。

資金の活用例

研修中の生活費等



今後の取組

今後はハウスの面積を増やし高品質な柑橘を生産したい。(現在：15a ⇒ 5年後：35a)

また、直販が過半を占めていることもあるため、法人化を目指し、信用される経営体として成長していきたい。

就農に向けた推移と今後

研修 (H26～H27)

柑橘の栽培全般
流通等経営関係

- ・社会人経験後研修開始。
- ・資金や会社員時代の貯金で生計を維持。

就農準備 (H27)

当初親からの一部継承
を計画していたが、全
部継承で経営開始。
(柑橘77a)

現在 (就農9年目)

順次規模拡大
(柑橘120a)

- ・作付け品目の拡大。
3種類⇒7種類

今後の目標 (就農14年後)

法人化による経営安定を
図るとともに、規模拡大やハ
ウス面積を増やす。

(柑橘120a⇒150a)
(ハウス15a⇒35a)

- ・直販している品種のより高品質化を行い、経営基盤を強化。

埜下 真樹 さん (39歳)

研修先：黒潮町農業公社
研修内容：施設野菜

新規就農を志した経緯・背景

民間企業やNPOで勤務していたが、農業への憧れを捨てきれず、新規就農を志した。

研修中に工夫したポイント

- ・就農に向けて、栽培管理からトラクターの操縦、農業経営の基礎まで、農業に関する様々なことを学んだ。
- ・農業公社所有のハウスで、様々な測定装置を用いてハウス内の環境を把握し、さらに環境制御装置を用いてデータに基づいた栽培管理を行うノウハウを身につけた。
- ・公社以外での研修や地元農業者との交流にも積極的に参加した。

資金の活用例

- ・生活費
- ・農機具購入費



今後の取組

経営規模拡大に向けて、作業の効率化を進めるため、新技術に関して、積極的に調査、視察、導入を進めていきたい。

就農に向けた推移と今後

研修 (H29～R1)

- (一社) 黒潮町農業公社で研修
- ・H29年に研修開始。
 - ・キュウリ栽培の基礎管理を習得。

就農 (R1)

- 黒潮町農業公社所有サポートハウス7aで就農
- ・環境測定装置、CO₂発生装置などの環境制御装置を導入。

詳細は
[こちら！](#)

現在 (就農5年目)

- 12aの中古ハウスを追加、総面積19aに
- ・高知県IoPクラウド (SAWACHI) 導入、若手生産者グループで環境データを共有。管内トップレベルの収量を記録。

今後の目標 (就農10年後)

- 経営規模拡大
作業効率化
- ・現在2カ所に分かれている圃場の集約。
 - ・新規ハウスでも統合環境制御装置を採用し、作業の効率化を図る。

白谷 大吉 さん (29歳)

研修先：先進農家
研修内容：イチゴ栽培

新規就農を志した経緯・背景

親戚のイチゴ農家から栽培をやってみないかと誘いを受け、最初は手伝い感覚だったが、次第に自分で栽培と経営をしたいと思うようになり、自分のほ場や施設を取得した。

研修中に工夫したポイント

- 基本的なイチゴの栽培技術や作業を身につける。
- 天候によって仕事内容や作業量が変化するので、それに適用できるように作業効率を上げるようにした。
- 現実的かつ理想的な農業経営スタイルをしっかりと考えて綿密に計画を立てた。

資金の活用例

- 農機具の購入
- 生活費



今後の取組

- 安定した収入が得られるようにイチゴの栽培技術の向上を目指す。
- 米・麦・大豆の栽培をしていく。(複合経営への展開)

就農に向けた推移と今後

研修 (H30～R1)

- イチゴの栽培実習。
- 農作業全般。
- 農業機械の免許取得。
- 自分の経営するハウス等の準備。
- 次年度に向けて親株の定植。

就農 (R2)

イチゴ 20a
オクラ 3a

- JA部会であまおうを栽培
- オクラを栽培して自分で出荷までするという流れを経験。
- 資金の確保ができ、トラクタなどの農機具を購入。

現在 (就農4年目)

イチゴ 20a

- JA部会員の高収量者等との交流により技術研鑽。
- あまおうの樹勢維持を意識した栽培管理を実践。
- 4名を雇用し、適期の作業を実践。

今後の目標 (就農10年後)

イチゴ 30a
米・麦・大豆 10ha

- イチゴの規模を拡大し、所得を向上。
- 現在、親戚が栽培している米・麦・大豆栽培を継承。

佐賀県

原田 諭 さん (39歳)

新規就農を志した経緯・背景

転職を考えていた折、妻の希望もあり就農を検討。きゅうり農家で体験実習をした際に楽しさややりがいを感じることができ、経営面でも魅力的である施設きゅうり栽培を決意。高い栽培技術や経営管理を身につけるためきゅうりトレーニングファームへ入校。

研修中に工夫したポイント

- ・研修1年目は研修ハウスでの実技研修及び土壌・肥料・農薬・病害虫防除の基礎など幅広く学び、全国トップクラスの農家から指導をいただいた。
- ・研修2年目は模擬経営を行うことで、統合環境制御技術や就農後の経営感覚を習得した。
- ・模擬経営では妻との役割分担など実際に近い形を意識して取り組み、後輩に作業の指導をするなど就農後の従業員教育につながるものを学んだ。

研修先：JAさがきゅうりトレーニングファーム
研修内容：きゅうり（栽培技術、経営等）

資金の活用例

研修中の生活費



今後の取組

経営規模は維持したまま、経営の合理化や反収増加により所得率の向上を目指す。

就農に向けた推移と今後

研修（H30～R2）

トレーニングファームで、きゅうりの栽培技術及び経営管理を習得。

- ・研修2年目は模擬経営。

就農開始（R2）

夫婦型で
農業経営

- ・妻と共同で農業経営を開始。
- ・施設（27a）はJAのリース事業を活用。

現在（就農4年目）

きゅうり27aを栽培

- ・統合環境制御技術を駆使し、反収39t（県平均25t）を達成。
- ・第47回佐賀県野菜生産改善共進会で最優秀賞を受賞。

今後の目標（就農4年目以降）

- ・反収45t以上達成に向けて技術向上を図る。
- ・経営の合理化による所得率の向上。

平井 聡 さん (46歳)

研修先：豊後大野市インキュベーションファーム
研修内容：ピーマン

新規就農を志した経緯・背景

前職でアパレル関係の仕事をしていたが、先の見えない仕事に転職を考えるようになった。もともと夫婦で田舎暮らしがしたいといった思いがあり、田舎でできる仕事は何か考えたときに、資格を必要としない農業が思い浮かんだ。都市近郊で調べたときに豊後大野市のインキュベーションファームを見つけ、短期研修を受けてみて、研修生がいきいきと研修を受けている姿を見て、入校することに決めた。

資金の活用例

- ・生活費
- ・就農準備費



研修中に工夫したポイント

- ・完全な農業初心者であったため、指導を受けたとおりに作業を行うことを意識した。
- ・その日の研修内容はノートに記録して、あとで見返せるようにする。また、写真や動画を撮ることで視覚的にもわかりやすくした。
- ・先輩卒業生から話を聞いた。大体同じことで苦労をしているので自分たちと同じ目線で話をしてくれた。

今後の取組

- ・ピーマン
収穫最盛期の作業効率を上げて、廃棄をできるだけ少なくして、収量を向上させる。
- ・カボス、ちぢみほうれん草
冬場の収入源の1つとして、体力的に負担がかからない程度に栽培する。

就農に向けた推移と今後

研修 (H31~R2)

農作業全般(座学、農家視察を含む)

- ・平成31年1月に研修開始。
- ・大型特殊免許取得
- ・次世代準備型を活用し、生計を維持。



就農準備 (R2)

模擬営農
圃場の選定

- ・研修講師からの紹介で圃場を取得。
- ・次世代経営開始型受給のため、関係機関と連携し資料を作成。



現在 (就農3年目)

ピーマン 15a
かぼす 2a
ちぢみほうれん草 4a

- ・農業収入は就農1年目から計画を大きく上回り、その後も順調な営農を行っている。

夫婦型で
農業経営



今後の目標

ピーマン 15a
かぼす 2a
ちぢみほうれん草 4a

- ・作業効率を上げて、収量を向上させる。

川添 圭路 さん（43歳）

研修先：先進農家

研修内容：施設園芸（きゅうり）

新規就農を志した経緯・背景

祖父が農家であり、小さい頃から手伝いをしていた。教員として埼玉県に就職した後も、いつかはUターンをしたいという思いがあり「農業」を選択した。

研修中に工夫したポイント

- ・座学において、疑問に思ったことは徹底的に質問する。
- ・実習は「とりあえずやってみる」の精神を重視。
特に初期は悩んでも分からないことがほとんど。
- ・実習は「人よりも動く」。
1年間という短い研修期間で技術を身につけるためには、人よりも多くの作業や経験を積む必要あり。

資金の活用例

研修中は、無収入での生活となるため、生活資金として活用した。



今後の取組

- 部会上位の反収を維持する。
- 定期的に「休み」をとれる経営を目指す。

就農に向けた推移と今後

研修（H29～H30）

農業全般の座学。
施設園芸栽培の実習。

- ・平成29年に研修開始
- ・人よりも多く質問し、人よりも多く手を動かす。

就農（H30.8）

施設きゅうり17aで
経営を開始。

- ・農地とハウスは、研修先から賃借
- ・農業次世代人材投資事業（経営開始型）を活用

台風被災（R4.9）

宮崎県を襲った
令和4年台風14号
により、ハウスが
損傷。
修繕を契機に、
リースから所有へ。

現在（就農6年目）

規模を23aに拡大。
技術の研鑽を重ね、
部会上位の反収を
達成。

今後の目標

今は働き詰めの
毎日。

現在の収量を
維持しながら、
休みをとる。

山田 豊 さん (38歳)

研修先：先進農家
研修内容：野菜

新規就農を志した経緯・背景

高校卒業後、一度は島外に出て会社勤めをしていたが、生まれ育った種子島の山や田畑など自然豊かな故郷を忘れられず、帰島して就農することを決意した。

研修中に工夫したポイント

- ・指導農業士である先進農家のもとでベテランの技術を間近で学びつつ、農業公社が行っている講座にも積極的に参加し、農業の基礎知識から経営管理面など幅広く知識を習得した。
- ・農業委員会に相談し、農地の確保を進めるとともに、研修終了後スムーズに経営開始型に移行できるよう役場とも事前に調整を行った。
- ・研修終了の半年ほど前から圃場の準備を進め、必要最低限の機械を購入しすぐに就農開始できる体制を整えた。
- ・先進農家の人脈を活かし、就農後につながるネットワークを構築した。

資金の活用例

研修期間中の生活費や就農に向けた準備資金



今後の取組

目標とする作付面積を達成することができたので、今後も雇用を増やし法人化を視野に入れながら規模拡大を図っていききたい。まずは自らの農業経営を発展させ、地域の農業振興や地域の活性化に貢献したい。

就農に向けた推移と今後

研修 (H28～30)

先進農家のもと野菜の栽培実習・機械操作、農業公社等での座学

- ・平成28年に研修開始。
- ・資金は生活費の補填。

就農準備 (H30)

経営開始型へのスムーズな移行に向けた調整

- ・農地中間管理事業を通して農地貸借。
- ・農業機械の購入。
- ・青年等就農計画の作成。

現在 (就農5年目)

I PMの導入、従業員の雇用により規模拡大

- ・青年農業士の認定や、JA部会長に任命されるなど、地域農業の若手リーダーとして活躍。

今後の目標 (就農10年後)

農業法人化を目指す

- ・補助事業等活用した施設の増設による露地・施設を組み合わせた安定生産。
- ・高単価での販売取引や販路の拡大等の販売努力、雇用の拡大。